

## 自負と自虐とユーモアと

秋尾敏『納まらぬ』、本阿弥書店、2005年7月29日、ISBN4-7768-0188-4、  
定価2500円＋税

Sayumi KAMAKURA

鎌倉 佐弓

俳句を推敲すると言われて驚く人は、そういないだろう。私たちは芭蕉を始め、その素晴らしい例をいくつも知っている。

では句集を構成すると言われてたらどうだろう。句集の構成とは俳句を選び配列することだが、私が出合ってきた句集は、高柳重信や夏石番矢を除けば、判で押ししたように製作年代順、春夏秋冬の順に並んでいるばかりで、残念ながら構成に工夫を凝らしているとは言い難いものが多かった。せっかく一句に時間をかけても、配列のせいでその句が生かされていないことさえあった。

確かに製作年代順は記録としては都合がよいが、作者が句に込めた思いを伝えるには不十分になりがちだ。読者を楽しませたいと思うならば、私たちは、もっと句集の構成について考えるべきではないだろうか。長い間、そう思ってきた。

ところが今回、秋尾敏が出版した句集『納まらぬ』は、一句へのこだわりはもとより、その構成に並々ならぬ工夫がされていて、たいへん興味深いものになっていた。

構成の工夫は二つ。一つ目は全体を四季に分けたことだ。その分け方自体めずらしくないが、それぞれに「暖かいころ」「暑いころ」「涼しいころ」「寒いころ」という章題をつけたのが工夫といえようか。これは黄靈芝氏の歳時記に習ったそうだが、句集の「あとがき」にも「季についてはゆるやかに考えていきたい」と書かれたように、句によってはたとえ季語があっても、季節感は強く表現されていなかったりする。季語とは何か。俳句は季節を詠まなければいけないものなのか。では、本当に季節を詠んでいるのか。私たちが、季について考えねばならないことは多い。

工夫の二つ目は、全三七二句を六句ずつ六二の部に分け、小題を添えた上ですべて見開き二ページに収まるように並べたことだ。実際、季節分けよりこちらの方が斬新で、作者の意図もよく伝わってきた。例えば青年を詠んだ「嘘ひとつ」、少女を詠んだ「危うく見えし」、動物が並ぶ「あぶないよ」などどれも魅力的だった。特に私が注目したのは「隠れている私」の部。ここには以下の句が並んだ。

騷擾の雲呼び集め荒御輿  
花菖蒲いつも隠れている私  
数分の午睡に風の増えている  
帰燕だろうか一羽だけだけれど  
ふたつめの星ゆらゆらと青嵐  
自転車を開より抜けば夏薊

一句目、御輿でにぎわう地上と、雲でにぎわう天の取り合わせの妙はどうだろう。また花菖蒲の陰に私が隠れているというのも、気鬱の吐露と思えて共感できるし、次の午睡にしても、わずかな時間の経過を敏感にとらえて見事。さらに四句目は、一羽の燕におくるエールだろうか。なにげない言葉に作者の優しさがうかがえる。それから「青嵐」の中に見出した星は、一つめよりふたつめの方がゆらゆらと見えたという。同じ星に儚さのちがいをみていて印象深い。いずれも繊細な感性と、言葉の適切さとが際立つ俳句群である。

ここまで『納まらぬ』の構成に沿って見てきたが、実は秋尾敏の俳句にはそれだけでは語れないものがある。一句一句を成り立たせている心情と言えいいだろうか。彼を俳句に駆り立てているものと言えいいだろうか。もう少しくわしく見ていこう。  
すると、まず気がつくのが自虐である。

ちりちりとみぞれあなたに叱られて  
湿原の前屈あと五センチが寒い

「ちりちり」はみぞれが何かにぶつかった時の音。それに「あなたに叱られて」の痛みが重なる。この「あなた」は恋人か、あるいは心を許せる相手なのだろう。自虐にかすかな甘えが覗く。次の句の「寒い」には、現実の寒さに、前屈しても五センチ足りずに湿原の花または草を手でできない自嘲が混じった。五センチが多いか少ないか。ここでの自嘲にも心なしか自虐がほの見える。

さらに忘れてならないのが、自虐の背後に潜む自負心である。作者があえて俳句に自虐を表現できるのも、この自負心があればこそ。読者の心にひびく自虐は、確固とした自負の存在なくして生まれえない。

雲雀の子言葉に目覚めれば孤独  
ビニールに命預けている秋風

そして気づくのはユーモアである。「言葉に目覚めれば孤独」なのは雲雀だけではない。本当に孤独なのはきっと人間だよ。彼は明るく軽やかに暗示して見せる。次のビニールに入った「秋風」もユーモラスな一方で、「命預けている」と言われると、ぎくっとするのも事実。この秋風が人にとって代われるのは言うまでもない。

思えば秋尾敏の俳句はどんなに暗く重たい内容を詠んでいても、どこかユーモアに溢れていた。雲に隠れていても、お日様はきっと照らしているように、暗さを越える明るさが彼の俳句には確かにある。

句集名『納まらぬ』も、案外その辺りが表れているようで楽しい。